

ステビア(ハーブの一種)抽出発酵液による乳牛の慢性乳房炎対策

慢性乳房炎には効果的な治療法がなく、乳を廃棄したり、牛個体を淘汰(廃用)せざるを得なかった。

そこで、ステビア抽出発酵液を飲ませた結果、乳汁中の体細胞数や細菌数の低減に対して、極めて良好な成績が得られた。



ステビアとは?

南米パラグアイ原産のキク科の多年性植物で、古くから「免疫草」とも呼ばれ、強力な抗酸化活性や殺菌力、さらには免疫活性化作用が認められている。

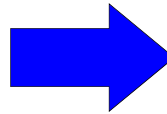


ステビア抽出発酵液の製法

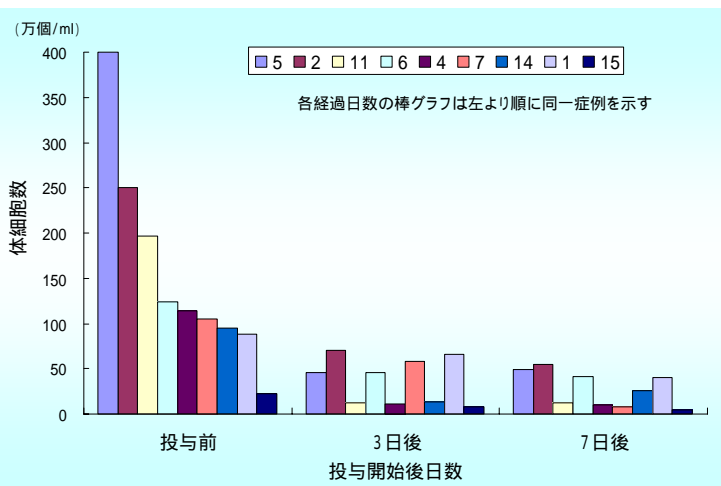
乾燥・粉砕

煮沸・抽出

濃縮・発酵・熟成



慢性乳房炎にかかっている泌乳牛に、ステビア発酵液100mlを水で2倍に希釈して、3日間連続で飲ませ、乳汁中の体細胞数(白血球など)や細菌数を調査した。



体細胞数への低減効果

15頭中著効9頭、有効3頭、無効3頭で、著効、有効合わせて80%の有効率



商品化により、広く酪農家で使用されている。

細菌感染分房への効果

70%弱の分房で細菌数の減少が認められた。

(細菌検出分房数)		ブドウ球菌 (31分房中)				小計 (割合)
		著効	有効	無効	未検出	
一般細菌 (37分房中)	著効	4			2	6 (16.2%)
	有効	4	11	2	1	18 (48.7%)
	無効	2		8	3	13 (35.1%)
小計 (割合)		10 (32.3%)	11 (35.5%)	10 (32.3%)		